



警告 のニュースレター「角笛」

発行日：2013年6月発行（第38号）

発行：警告の角笛出版

価格：フリーペーパー（無料）

角笛 HP: <http://www.geocities.co.jp/Technopolis-Mars/5614/>

目次：

◎巻頭メッセージ「北(カトリック)からの災い」エレミヤ

◎証「“1 タラントのしもべ”を通して語っている『弟子の歩み』について」E3

◎お知らせコーナー 「黙示録セミナー」

< 巻頭メッセージ >

「北(カトリック)からの災い」

by エレミヤ

本日は、「北(カトリック)からの災い」として、終末の日にプロテスタントに起きるカトリック由来の災いを見ていきたいと思えます。

< 世の終わりにプロテスタントには北からの災いが押し寄せる >

聖書は終末の日にプロテスタントには、北、カトリックによる災いが押し寄せることを預言しているように思えます。以下のことばを見てください。

“ダニエル11:40 終わりの時に、南の王が彼と戦いを交える。北の王は戦車、騎兵、および大船団を率いて、彼を襲撃し、国々に侵入し、押し流して越えて行く。”

ダニエル書は、謎とたとえに満ちた書です。その謎とたとえを理解するなら、北の王、南の王は、旧約の2つの神の民の国であるイスラエル国とユダ国のたとえと理解できます。さらに新約においては、同じく新約の2つの

神の民である、カトリック、プロテスタントのたとえと理解できます。そのように理解するなら、ここでは、北の王、すなわち、カトリックが南の王の国すなわち、プロテスタントの領域へ「戦車、騎兵、および大船団を率いて、彼を襲撃し、国々に侵入し、押し流して越えて行く」すなわち、プロテスタントを席卷していくことが書かれている、と理解できます。

< 黙示録はキリスト教会が統一される日を預言している >

聖書、黙示録は終末の日に全世界のキリスト教会、すなわち、カトリックとプロテスタントとが、統一され、ひとつになる日を預言しているように思えます。以下のことばを見てください。

“黙示録13:11 また、私は見た。もう一匹の獣が地から上って来た。それには小羊のような二本の角があり、竜のようにものを言った。

13:12 この獣は、最初の獣が持っているすべての権威をその獣の前で働かせた。また、地と地に住む人々に、致命的な傷の直った最初の獣を捧げた。”

「北(カトリック)からの災い」

by エレミヤ

子羊は、神の子羊、キリストのことですから、ここに現れる獣は、子羊、キリストの体である、キリスト教会をさすと理解できます。しかし、黙示録の時代には残念ながら、世界のキリスト教会は獣の国、すなわち、アメリカの強制と恫喝と圧迫の下で、獣化します。666の獣の様にサタンの意を行うように変質してしまうのです。

「小羊のような二本の角」とは、キリスト教会の2大勢力、カトリックとプロテスタントをさすと理解できます。この箇所注目すべきことは、それは、この教会が「もう一匹の獣」として、その数が一つである、すなわち、キリスト教会がこの日には、一つに統一されていることです。

今のキリスト教世界を見渡すなら、カトリックとプロテスタントは決して一つではありません。カトリックの法皇の命令やら、通達など、プロテスタントは、実行しないでしょうし、また実行しなければならぬ、いわれもない、と思っています。

逆にプロテスタントの教会の動向など、多くのカトリックの人々は知らないし、知ろうとも思っていないでしょう。このように今は確かにカトリックとプロテスタントは区分されているし、分裂しているし、統一はされていないのです。しかし、前述の様にその黙示録の日には、これらの2つはひとつになり、神の前には一匹の獣となります。

すなわち、今少しづつ進んでいるエキュメニカル運動、教会統一運動はその日には、成功し、教会統一は実現するのです。その統一の結果、カトリックのあらゆる、偽り、災いはプロテスタントになだれこみ、結果この黙示録の記述のとおり、教会は神の前に「獣」となる、そのように理解できます。

＜エキュメニカルは進展している＞

今、プロテスタントにおいては、教会統一、すなわち、エキュメニカル運動は以下の様に、大いに進んでいます。

1)カトリック批判の本はキリスト教書店から、排除されている。逆にカトリック擁護の本や、マリヤ像などが書店におかれている。

2)ずっと青山など大きなキリスト教大会では、カトリック批判はご法度。

3)キャンパスクルセードなど、キリスト教団体では、カトリック批判はご法度。

4)ビリー・グラハムなどのプロテスタントのリーダーがカトリックを受け入れる発言、行動を行っている。

5)カトリック、プロテスタント教会相互の間に交換メッセージが進められている。

＜カトリックの実態は何一つ変わっていない＞

カトリックは、もう改善された教会であるから、私たちプロテスタントは彼らと合同すべきなのでしょう？この教会の現状はしかし、今も相変わらず冒瀆的です。ルターがカトリックと絶縁した頃と比べて何一つ改善されておらず、というより、もっと悪くなっています。以下のとおりです。

1) 法王は進化論を公に認めている。要するに、創世記の「神がアダムを創造した」との記述は嘘であると教えているわけである。



サン・バルテルミの虐殺(カトリック教徒によるプロテスタントの虐殺)

「北(カトリック)からの災い」by エレミヤ

2)法王は、「神はアダム、エバとともに地球外生命体をも創造した」と述べている。地球外生命体、すなわち、宇宙人をも神が創造した、と聖書にない主張をしているわけである。

3)そもそもカトリックは聖書を信じていない。それどころか、聖書にも間違いがある。間違いのないのは、教会(法王)だけである、などとトンデモない教理を信じている。

4)カトリックはあらゆる聖書のことばに反している。その中でも偶像崇拜に関するみことばを無視し、悪霊マリヤの像を拝むことは大きな冒瀆。

私たちはこのような教会と本当に合同すべきなのでしょうか？

＜北のイスラエル国は最後まで、偶像崇拜を続け、神の怒りをかい続けた＞

旧約聖書を読むとき、旧約の神の民である北のイスラエル国は、神の戒めに逆らい、偶像崇拜を続け、結果神の怒りをかったことがわかります。以下のことばのとおりです。

1列14:9 ところが、あなたはこれまでのだれよりも悪いことをし、行って、自分のためにほかの神々と、鑄物の像を造り、わたしの怒りを引き起こし、わたしをあなたのうしろに捨て去った。

14:10 だから、見よ、わたしはヤロブアムの家にわざわいをもたらす。ヤロブアムに属する小わっぱから奴隷や自由の者に至るまで、イスラエルにおいて断ち滅ぼし、糞を残らず焼き去るように、ヤロブアムの家のあとを除き去る。

14:11 ヤロブアムに属する者で、町で死ぬ者は犬がこれを食らい、野で死ぬ者は空の鳥がこれを食らう。』主がこう仰せられたのです。

北のイスラエルの王、ヤロブアムはその偶像崇拜のゆえに、神の怒りをかい、滅びました。今の時代も神の方法に変わりがあるはずもな

く、偶像崇拜、聖人崇拜、法王崇拜に興じる、カトリックは神の怒りをかい続けているのです。

＜北のイスラエルと共闘、合同すべきではない＞

神はユダに対して、北のイスラエル国との合同、共闘を望んだでしょうか？以下の箇所をみれば、そんなことは望まなかったことがわかります。

“2歴25:6 さらに、彼はイスラエルから、銀百タラントで、十万人の勇士を雇った。

25:7 神の人が彼のもとに来て言った。「王よ。イスラエルの軍勢をあなたとともに行かせてはなりません。主は、イスラエル、すなわち、すべてのエフライム族とは、共におられないからです。

25:8 それでも、あなたが行くと言われるのなら、そうしなさい。雄々しく戦いなさい。神は敵の前にあなたをつまずかせられません。神には、助ける力があり、つまずかせる力もあるからです。」

25:9 アマツヤは神の人に言った。「では、イスラエルの軍勢に与えた百タラントはどうしたらよいのか。」神の人は答えた。「主はそれよりも多くのものをあなたに与えることができになります。」

この様に冒瀆のイスラエルとユダが共闘することは神のみこころではありませんでした。

同じく、冒瀆のカトリックとの共闘をプロテスタントが行うことには、みこころがないのです。

＜カトリックとの合同に反対するものは首を切られる＞

この様にカトリックとの合同はみこころではないのですが、しかし、その合同に反対するものには、

首切り、すなわち、殉教の可能性あることを聖書は語っているように思えます。以下のことばを見てください。

マタイ:14:3 実は、このヘロデは、自分の兄弟ピリポの妻ヘロデヤのことで、ヨハネを捕えて縛り、牢に入れたのであった。

14:4 それは、ヨハネが彼に、「あなたが彼女をめとるのは不法です。」と言い張ったからである。

14:5 ヘロデはヨハネを殺したかったが、群衆を恐れた。というのは、彼らはヨハネを預言者と認めていたからである。

14:6 たまたまヘロデの誕生祝いがあって、ヘロデヤの娘がみなの前で踊りを踊ってヘロデを喜ばせた。

14:7 それで、彼は、その娘に、願う物は何でも必ず上げると、誓って堅い約束をした。

14:8 ところが、娘は母親にそそのかされて、こう言った。「今ここに、バプテスマのヨハネの首を盆に載せて私に下さい。」

14:9 王は心を痛めたが、自分の誓いもあり、また列席の人々の手前もあって、与えるように命令した。

14:10 彼は人をやって、牢の中でヨハネの首をはねさせた。

14:11 そして、その首は盆に載せて運ばれ、少女に与えられたので、少女はそれを母親のところに持って行った。

14:12 それから、ヨハネの弟子たちがやって来て、死体を引き取って葬った。そして、イエスのところに行って報告した。

この記事には、たとえや未来への預言があるように思われます。

ヘロデは、当時の神の民ユダの長です。今の

時代にたとえれば、プロテスタントのトップの様な立場にいるのです。兄弟の妻をめとることはよくない、とここでは言われていますが、プロテスタントの兄弟とはカトリックであり、その妻をめとり一体となる、すなわち、プロテスタントとカトリック教会をひとつにすることにはみこころはないとの主張と理解できるのです。

そして、その合同に反対したヨハネは首を切られ命を失ったのです。同じく終末の日に起きるカトリックとプロテスタントとの合同に反対する人々も首を切られる可能性があります。以下の首をはねられる人々もこのことと関係しているのかもしれませんが。

黙示録20:4 また私は、多くの座を見た。彼らはその上にすわった。そしてさばきを行なう権威が彼らに与えられた。また私は、イエスのあかしと神のことばとのゆえに首をはねられた人たちのたましいと、獣やその像を拝まず、その額や手に獣の刻印を押されなかった人たちを見た。彼らは生き返って、キリストとともに、千年の間王となった。

<プロテスタントはその冒流のゆえにカトリックからの災いを受け
る>

ところで、何故終末の日に、カトリックからの災いがプロテスタントに臨むのでしょうか？エレミヤ書はこう述べています。

“エレミヤ 1:13 再び、私に次のような主のことばがあった。「何を見ているのか。」そこで私は言った。「煮え立っているかまを見えています。それは北のほうからこちらに傾いています。」

1:14 すると主は私に仰せられた。「わざわざ、北からこの地の全住民の上に、降りかかる。

1:15 今、わたしは北のすべての王国の民に呼

ひかけているからだ。——主の御告げ。——彼らは来て、エルサレムの門の入口と、周囲のすべての城壁と、ユダのすべての町に向かって、それぞれの王座を設ける。

1:16 しかし、わたしは、彼らのすべての悪にさばきを下す。彼らはわたしを捨てて、ほかの神々にいけにえをささげ、自分の手で造った物を拝んだからだ。”

この箇所を見ていきましょう。

「煮え立っているかまを見えています。それは北のほうからこちらに傾いています。」

ここでは、ユダの国に北からの災い来ようとしていることが描かれています。ユダの北はイスラエルであり、今のプロテスタントに関していえば、それは、カトリックからの災いです。

煮え立っているかまと書かれていますが、かまは、米や麦を調理する道具であり、パン、みことば、教理と関係があります。すなわち、煮えたぎったかまのように、危険なカトリックの偽りの教理が今にも、プロテスタントに、襲い掛かってくるぞという、警告の預言なのです。

「今、わたしは北のすべての王国の民に呼びかけているからだ。」と書かれているように、北、カトリックとの合同、エキュメニカルは神の怒りのゆえに進んでおり、進行しています。

「彼らは来て、エルサレムの門の入口と、周囲のすべての城壁と、ユダのすべての町に向かって、それぞれの王座を設ける。」

ですから、あらゆるカトリックの教えは、ユダの全ての町、すなわち、プロテスタントの全ての町を席卷するようになるでしょう。しかし、それは、何故なのでしょうか？

その理由に関して神は、「しかし、わたしは、彼らのすべての悪にさばきを下す。彼らはわたしを捨てて、ほかの神々にいけにえをささげ、自分の手で造った物を拝んだからだ。」と語ります。

ですので、神は今のプロテスタントの潮流、現状を、「ほかの神々にいけにえをささげている」と見ておられることに目を留めましょう。

もちろん、それは、プロテスタントの中で、仏教を拝んでいる、イスラム教の神を拝んでいる、という意味合いではないのです。そうでなくて、今、プロテスタントで進んでいる器崇拜、人間の教師崇拜に関して神は怒りを発していると理解できるのです。

論より証拠、今のプロテスタントは神のことばではなく、人間の器から出た教え、教理を尊重していません。そして、逆に神のことばを投げ捨てているのです。たとえば、艱難の前に挙げられるとか、キリストは2回に渡って再臨する、などの教理は神のことば、聖書が本来語っている教理ではありません。

これは、19世紀以降、J.N.ダービーなどの人間の器により、教会に持ち込まれた新しい教理なのです。

そして、愚かにも教会は神のことばを捨て、人間の器の教えを、尊重するようになったのです。

「彼らはわたしを捨てて、ほかの神々にいけにえをささげ、自分の手で造った物を拝んだからだ。」とのことばはですから、確かに成就しているのです。さらに福音派で、大いに尊敬されているビリー・グラハムは「カトリックには何の問題もない」と語りました。その結果、神のことばより、人間の器を崇拝する愚かな福音派は、カトリックへの批判を封印するようになります。結果、今見るように、エキュメニカルは大いに推進するようになりました。

まことに神のことは正しく、「彼らはわたしを捨てて、ほかの神々にいけにえをささげ、自分の手で造った物を拝んだからだ。」とのことばは今、私たちの目の前で成就しているのです。この方を恐れ歩みをただみましょう。

—以上—



サン・バルテルミの虐殺を喜び、記念しローマ法王により発行されたメダル

最近、ひよんなことをきっかけに、福音書の“1 タラントのしもべ”について、考える機会がありました。はたして、“1 タラントのしもべ”が、天の御国に入るかどうか？です。そのことを通して、主がこんなことを語っているのかな？と、思うことがありましたので、証をさせていただきます。

参照 マタイの福音書25:14-31

25:14 天の御国は、しもべたちを呼んで、自分の財産を預け、旅に出て行く人のようです。

25:15 彼は、おのおのその能力に応じて、ひとりには五タラント、ひとりには二タラント、もうひとりには一タラントを渡し、それから旅に出かけた。

25:16 五タラント預かった者は、すぐに行って、それで商売をして、さらに五タラントもうけた。

25:17 同様に、二タラント預かった者も、さらに二タラントもうけた。

25:18 ところが、一タラント預かった者は、出て行くと、地を掘って、その主人の金を隠した。

25:19 さて、よほどたってから、しもべたちの主人が帰って来て、彼らと清算をした。

25:20 すると、五タラント預かった者が来て、もう五タラント差し出して言った。『ご主人さま。私に五タラント預けてくださいましたが、ご覧ください。私はさらに五タラントもうけました。』

25:21 その主人は彼に言った。『よくやった。良い忠実なしもべだ。あなたは、わずかな物に忠実だったから、私はあなたにたくさんの物を任せよう。主人の喜びをともに喜んでくれ。』

25:22 二タラントの者も来て言った。『ご主人さま。私は二タラント預かりましたが、ご覧ください。さらに二タラントもうけました。』

25:23 その主人は彼に言った。『よくやった。良い忠実なしもべだ。あなたは、わずかな物に忠実だったから、私はあなたにたくさんの物を任せよう。主人の喜びをともに喜んでくれ。』

25:24 ところが、一タラント預かっていた者も来て、言った。『ご主人さま。あなたは、蒔かない所から刈り取り、散らさない所から集めるひどい方だとわかっていました。』

25:25 私はこわくなり、出て行って、あなたの一タラントを地の中に隠しておきました。さあどうぞ、こ

れがあなたの物です。』

25:26 ところが、主人は彼に答えて言った。『悪いなまけ者のしもべだ。私が蒔かない所から刈り取り、散らさない所から集めることを知っていたというのか。』

25:27 だったら、おまえはその私の金を、銀行に預けておくべきだった。そうすれば私は帰って来たときに、利息がついて返してもらえたのだ。

25:28 だから、そのタラントを彼から取り上げて、それを十タラント持っている者にやりなさい。』

25:29 だれでも持っている者は、与えられて豊かになり、持たない者は、持っているものまでも取り上げられるのです。

25:30 役に立たぬしもべは、外の暗やみに追い出しなさい。そこで泣いて歯ざしりするのです。

25:31 人の子が、その栄光を帯びて、すべての御使いたちを伴って来るとき、人の子はその栄光の位に着きます。

少し長いのですが、30節を見てください。ここに、“1 タラントのしもべ”の結末について、書かれています。「外の暗やみ」と「泣いて歯ざしりする」という言葉は、他の箇所でも使われています。

参照 マタイの福音書8:11,12

8:11 あなたがたに言いますが、たくさんの人が東からも西からも来て、天の御国で、アブラハム、イサク、ヤコブといっしょに食卓に着きます。

8:12 しかし、御国の子らは外の暗やみに放り出され、そこで泣いて歯ざしりするのです。」

ここでも、まったく同じ言葉が使われています。いずれも、決して良い意味合いではありません。話は、“1 タラントのしもべ”に戻りますが、人間的に考えるなら、増えはしなかったものの、減らさなかったのだから問題はないのでは？と、思いますよね。でも、神様はこのしもべに対して叱責をしています。「悪いなまけ者のしもべだ」と。そして、そのしもべがどのような扱いを受けるか？について、30 節に書かれているのです。「外の暗やみ」とか「泣いて

歯ざりする」と聞いて、天の御国を想像しますか？天の御国は、神の栄光で照らされているので、決して暗い所ではないはずで、また、もはや死もなく、悲しみや叫びも無いとも言われているので、泣いて歯ざりするような世界でもないのです。と、言うことは、“1 タラントのしもべ”は、天の御国を継がなかった可能性が大いにあり得るのでは？と思います。

さらに、考えなければいけないことがあります。それは、神の“しもべ”、すなわち、弟子の歩みをしている人の中に、御国を受け継がない人がいるということです。弟子の歩みをしているからと言って、安心できないのです。たしかに献身者と呼ばれる立場の人々は、主の弟子として歩むために、必要な訓練をします。お祈りや聖書の読み込み、預言やメッセージの訓練等。しかし、訓練だけで終わってしまうなら、主の弟子としては建て上げられないのです。訓練を通して、主から力や知恵を与えられたのなら、それを何らか用いて歩みや働きにどんどん反映させていかなければいけないのです。分かりやすく言うなら、神の栄光を現さなければいけないのです。もっと言うなら、祈りの中で、どこまでも主にお仕えしていく歩みに徹していかなければいけないのです。あるいは、そのような方向性を目指していかなければいけないのです。もし、そうでないのなら、何のための訓練なの？ということになってしまうのです。もちろん個々の人の自由意志をどこまでも尊重される神様ですので、決して強制ではありません。ただし、それぞれの歩み方次第で、結果は大きく変わるのだということを、このたとえ話は語っていると思います。少しでもタラントを増やしたしもべに対しては、誉れを与えていますし、一方、1 タラントも増やさなかったしもべに対しては、厳しい裁きをしています。また、そのことに関連して、このような御言葉もあります。

参照 ルカの福音書12:47,48

12:47 主人の心を知りながら、その思いどおりに用意もせず、働きもしなかったしもべは、ひどくむち打たれます。

12:48 しかし、知らずにいたために、むち打たれるようなことをしたしもべは、打たれても、少しで済み

ます。すべて、多く与えられた者は多く求められ、多く任された者は多く要求されます。

ここでも、“しもべ”という言葉が使われていて、主人、すなわちキリストの御心を分かっているながらも、その通りに従わずに働きもしなかったしもべに対して、ムチを打つと言われています。しかも、ひどく打たれるとあります。もし、神様からありとあらゆる教えや示しを受けたなら、それだけ多く要求されることもあります。ちなみに多くムチ打たれる人とは、たとえば今の時代と言うなら、艱難に備えなさいという教えを聞いても、それに応じなかったり、背信のクリスチャンが裁かれることや獣の国がアメリカだということについて知っていながらも、そのことを周囲の人に伝えない人のことを言われていると思います。また、主からの警告や叱責やおすすめに對して、いつまでたっても心を頑なにしておおさない人も、そういった類と言えるのでしよう。

このことから、しもべ、すなわち主の弟子として歩む人においても、後の世には、2つの結果があることが理解できるでしょう。ですから私たちは、神様からの示しや語りかけには、順次応答していきたいと思ひます。また、成すべき働きや歩みを神様の前に忠実に行っていきたいと思ひます。もし、キリストの弟子として歩んでいるのであれば、まかり間違えても後の世に、外の暗やみに追ひ出されて、泣いて歯ざりすることのないようにしていきたいと思ひます。

補足までに、主のしもべ、すなわち弟子の歩みの人ですら、そのように扱われる可能性がありますので、未だ、群衆の歩みに留まり続けているなら、要注意だということは一言、申し上げておきます。キリスト教会において、クリスチャンは裁かれないという教理が大手を振っているため、このようなことは受け入れられづらいことかも知れませんが、聖書で語っている基準や方法をどこまでも尊重していきたいと思ひます。

今回の“1タラントのしもべ”のことについて、本当はどうなのかな？主から叱責を受けたけれど御国にはギリギリ入れてもらえたのでは？と、そんな思ひで御言葉を改めて見直してみたら、きちんとその答えが書かれていましたので、「すごいっ」と、

思いました。私自身も、今一度、襟を正して神様の前にきちんと歩いていかなければ！益々、熱心に主に仕えていかなければ！と、そんな志も与えら

れました。今回も大切なことを教えてくださった神様に栄光と誉れがありますように。
—以上—

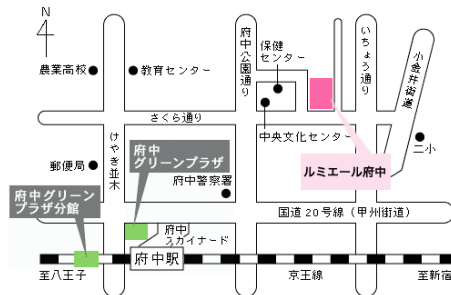
<お知らせコーナー>

- レムナントキリスト教会日曜礼拝：

午前:10:30-12:30, 午後 14:00-16:00

場所：東京、京王線府中駅前、府中グリーンプラザ本館(tel 042-360-3311)

場所の url: http://www.fuchu-cpf.or.jp/green/access/map_02.html



- 「エレミヤの部屋」終末預言解釈 HP （「エレミヤの部屋」で検索下さい）

黙示録、ダニエル書等、あらゆる終末預言に関する解釈を掲載しています。

- 「角笛」終末の警告 HP （「角笛」で検索下さい）

アメリカキリスト教会の背教の実態、悪霊のリバイバルなど、多数の終末関連の翻訳記事あり。

- 「黙示録を読む」無料メールマガジン

まぐまぐ ID:0000007108 毎日配信。終末に関するあらゆるトピックを掲載し、開始後12年、4000号を超えるクリスチャン向けロングランメールマガジン

- 「トロントブレッシングの真実」DVD

多くの人に衝撃を与えたDVD。トロントブレッシングとは、ブレッシングならぬ悪霊のリバイバルであることを映像、音声で伝える。価格 1000 円。申し込み先、レムナントキリスト教会

- 第 29 回黙示録セミナー by エレミヤ

黙示録、ダニエル書等終末に関するトピックを解説するセミナー。

北海道から、広島から熱心なクリスチャンが参加しています。

場所:府中グリーンプラザ本館講習室(7F) 場所は上記。

日時: 2013 年 7 月 21 日(日)PM6:00-8:30

費用:入場無料、ただしテキスト代 1000 円(当日徴収)

定員:20 名(先着申し込み順。満員しだい締切り)

主催:レムナントキリスト教会(tel 042-306-5002)

申し込み:メールもしくは fax で「名前、住所」記載の上、セミナー参加希望と申し込みください。

Fax 020-4623-5255 e-mail: truth216@nifty.com